

<73歳……大胆、にぎやか、天衣無縫> (091118 産経)

「ポップでサイケデリック(*psychedelic)な作品で知られるアーティスト、田名網敬一。グラフィックデザイナーイラストレーターとしての顔を持ち、ジャンルを超えた活動で73歳のいまでも精力的な創作活動を続けている」「……『異界の宴席』…横幅が2に近しい大作で、ピンクやイエロー、ブルーやグリーンなどの鮮やかな色彩が迫る。……▽作品は中国の故事で、ほうたん型の壺の中に桃源郷があるという『壺中天』を題材にして描き上げた。なんとも大胆でにぎやか。天衣無縫で若々しい。一方、自身が魅了されアーティストへのオマージュ(*homage)作品も出品。『爆発の瞬間』と題された作品は昨年亡くなった漫画家、赤塚不二夫にささげられた。……田名網は「若い娘はみな金魚に見える」という「作品には自身の体験が深くかかわっている。9歳のときに東京大空襲を体験。その時、祖父の飼っていた金魚が閃光の中で乱反射するシーンが恐怖感の中で脳裏に焼き付いたという。やがて閃光や金魚はしばしば作品に登場する重要なモチーフになった。81年には肺水腫を患い、一時は生死の境を行き来した。松はその時に見た幻想から導き出されたイメージだという」

<大学を首都圏から一掃せよ 地方活性化の拠点に 三枝成彰> (100419 日経)

「全国の大学、短大の約46%は関東平野に集中しているそうです。若い人はここに来ないと大学を卒業できません。いちど東京という魔物に引かれると、地元へはなかなか戻りません。一方、地方経済は急激に悪化しています」「私は全国の自治体首長と会う機会も多く、『音楽の街づくり』といった地域の活性化策について意見を求められますが、予算数千万円といった施策で経済効果を生むのは不可能です。オーストリアのザルツブルク音楽会のように、何百億円も投じて世界的な音楽家とプロデューサーでも招かない限り、多くの人は集まりません。しかし、一つの大学が移転してくれば、それだけで何千、何万の人が動くことになります。若い人口が増えれば、地方からの文化の発信にもつながります」

「東京本校、地方分校の二本立てといった抜け道は認めず、30年くらいかけて全面的に地方に移転させればいい」「地方の子弟が私立音大に進み、学費や個人レッスン料、防音付きの下宿代などの合計が4年間で2000万円に達するのを知っています。オーケストラへの就職は、極めて狭き門です。たいがい卒業即失業の現実に対して、けた外れに高額な投資と言えます」

「(*聞き手から)最近では東京の高校生が地方の大学、地方の高校生が東京の大学を受験する数は減り、地元での進学と就職を志向している。ブランド品に背を向けた若者の消費行動と同じ激変が、いつ大学に起きてても不思議ではない」

<カラオケがブームだったの?>(100327 日経)

「商談・会議に：都心のビジネスマンが利用。低価格と密室性が会議向き。主婦のランチ会：子どもが大きな声を出しても安心。滑り台や遊具が用意された部屋も。コンセプトカラオケ：漫画やアニメの世界観を再現した内装などを施す。リラックス空間：足湯やジャクジーを設置して“癒やし”を追求。女性客を中心に呼び込む。オーディション：インターネット経由で歌唱力を審査。プロデビューの可能性も」

<「歩き食べ」理由教えて> (100418 読売)

「多くが20~30代らしき若者。身なりがきちんとしているだけに、人目をはばからず食べる行為との落差にギョッとさせられる。先日も、ダークスーツにネクタイをきっちりと締めた男性が、コンビニ弁当を食べながら交差点を渡っていて、驚かされたがかりだ。……東京の女子大で、カップめんをすすりながら通学する学生に隣住民から苦情が出て、新学期から通学路でマナー指導を行うという記事が掲載されていた。……総務省の調査によると、20代が1日に食事にかかる時間は、2006年で90分未満と、1981年より2割近く減っている。でも、おにぎりを食べる数が惜しい?▽もしかしたら、食べることに関心を失っているのではないだろうか。食事には微妙な味わいを楽しんだり、家族や知人と食卓を囲んでコミュニケーションを図ったり、様々な要素が込められている。ところが、「歩き食べ」からは、そんな要素がすっぽり抜け落ちている」